

空間上手

2012
62
SUMMER



木で暮らす生活を提案

**開放感のリビングと、
侘び寂の和室を備える新居**

夢つながら

**NODE
N-mark**

匠の技

新和祭りを開催しました

心の風景

神宮東展示場リニューアルオープン!

開放感のリビングと、 侘び寂の和室を備える新居

種村敦夫さん・美智子さん ご夫妻 (三重県東員町)



5月の新緑が眩しくなりはじめた晴れの日、三重県東員町にお住まいの種村さんの新居を訪ねました。こちらにお住まいなのは、今年の秋には3人家族になるご予約の種村敦夫さん、美智子さんご夫婦です。春にはお庭を造園するなど、お子さんの誕生に向け少しずつ生活を整えるお二人に、新居の住み心地について伺ってきました。

写真／梶野 碧 文／有田幸司

3つの外観を備えた お屋敷風のお家

種村さんのご新居は、美しい田園風景が広がる三重県東員町にあります。

ご新居の外観は、白と黒のコントラストが鮮やかな武家屋敷風のデザインが特徴です。家屋のレイアウトは、2階建ての母屋に平屋の和室がL字型に連結する珍しい構造になっています。このため外から眺める角度によって、家の形が3種

類にも変わり、普通の2階建てに見えたかと思えば、和室と母屋の連なる大きなお屋敷に見えるなど様々な外観が表れます。

新居の南側には春に整地したばかりの綺麗なお庭と、東員町の美しい田園風景が広がり、これらを独り占めするかのような絶景が庭から眺められます。

キーワードは「開放感！」

玄関を抜けてリビングにお邪魔すると、30畳超の広大な空間が広がっています。リビングの伸びやかな雰囲気演出するのは、南側一面に眺えられた大窓たち。高さ2メートル超の特別規格の窓に、風景を遮断しないブリックカーテンを大胆に使用することで、圧倒的な開放感をもたらされています。カーテンを開放すれば、南一面に広がる豊かな自然が、すぐそこに感じられます。

毎日暮らす空間としての暖かさを演出するのは、室内にふんだんに使用される樺と檜の天然木。広々としているのに、落ち着いた気分できつろげるのは、無垢の木の優しい色合いと暖かい感触に包ま



れているからでしょうね。

見通しのよいリビング内は、フリススペース、シアタースペース、ダイニング、キッチンといった機能的なスペースが緩やかにつながっています。リビング入り口からは見えませんが、リビングと2階への階段をつなぐ場所には、作り付けの机と本棚の立派な書斎が眺えられています。

こちらは、教員をされている奥さまが仕事部屋としてお使いなのだそう。書斎とリビングの間には、伸縮自在の間仕切り扉が備えられおり、忙しい時期は、ここを締め切って集中してお仕事をされるのだとか。それにしてもこれだけ広いリビングなので、生徒さんをたくさん呼んでパーティを開いても、ゆったりとした空間の心地が楽しめそうです。

リビングに彩りを添える シアタースペース

広々としたリビングでも、一際目立つのはシアタースペースです。ソファの背後にはモザイクタイルの仕切り壁が配され、無垢の天然木で構成されるリビングの色合いにアクセントを加えています。

シアタースペースの使い方を伺うと、意外なこと夫婦の趣味は全く異なるそう。映画を中心に幅広く柔軟に楽しむのが敦夫さんなら、音楽を中心に深く掘り下げて追究するのが美智子さんの楽しみ方。追求派の美智子さんは、リビングのインテリアを飾るジグソーパズルや、キッチンでお菓子作りにも凝るなど、新生活を満喫されているご様子です。

「隠れ家」のような和室

種村さんの新居を語るには、敦夫さんが「隠れ家」と紹介する和室も外せません。

こちらは開放感が強調されたリビングとは対照的に、四方を襖と土壁で囲まれた静かな空間が造り込まれているのが特徴です。

窓の視界はぐっと制限されることで、かえって窓から見える中邸の景色の美しさが際だつ造りとなっています。一方で、部屋を飾る意匠は独創的。金地のふすま戸に、沖縄畳、そして和船の船底を思わせる船底天井が用いられ、華やかで

遊び心ある素材が随所に散りばめられています。これだけ贅沢な材料を用いているながら、室内に座ると、凛とした静かな気分になるのですから、この調和した空間を作り上げたのはお見事というほかありません。まるで、武家屋敷に設えられた茶室を思わせる、侘び寂の効いた「隠れ家」が自宅にあるなんて羨ましい限りですね。

自然が感じられる素材で ほっとしたい

綿密に作り込まれた室内を見て、さぞきつちりしたご主人かと思えば、実は敦夫さんは「おおざっぱな性格」だそうです。「面白いと思う(新和建設の)提案には、どんどんOKを出していたら、今のようにつくりになってしまいました」と敦夫さん。

でも敦夫さんは「僕は自然育ち。素材のわかるもので、ほっとできる家が造りたかった」とも仰います。豪奢な新居への取材は緊張感が伴うものですが、常に自然体のお二人のお陰で、和やかな雰囲気でお話を伺うことができました。「開放的で、ほっとできる空間」が見事に実現されたのは、家主の手柄があつたことなのだと、実感できる新居への訪問でした。



PHOTO-ESSAY



自然と共に生きる時間

写真・文/加藤光博

海外旅行をするようになってからは、自然を欲する思いをも異国の地で求めてしまうことが多かった。しかし、30カ国近くの国を訪れることによって、ようやく気付いたのは、日本という国ほど素晴らしいところはなにかということ。そんな大事なことに気付くまで時間がなかった。

行き先として選んだのは、オリーブの産地として有名な小豆島。今回の旅の目的は、自然が溢れる所で、普段は味わえないゆっくりにした時間を過ごしたかったからだ。名古屋、東京、大阪と、大都市で暮らすようになってから10年以上が経つが、自然がたくさんあるような場所がそうであるから仕方がないことかもしれない。

先日、久しぶりに1泊2日で国内一人旅に出かけた。日帰りでふらっとどこかへ出かけることは稀ではないが、海外旅行をするようになってから、国内で宿泊を伴って一人で出かけること、つまりは「国内一人旅」を決行したことは、記憶にないくらい久しぶり。

ことが、「国内一人旅」が久しぶりになってしまった所以だった。

さて、そのような思いをもって訪れた小豆島だったが、期待を裏切られるようなことは一切なかった。想像以上に、海、山、空など、あらゆる自然が自分のすぐそばに在るような感覚が得られたのだ。実際の距離が近いということももちろんあるけれど、それ以上に、島のいたるところで垣間見られる、自然と人との間で長年培われてきた生活風景が、自然と共に生きることの美しさを強く感じさせてくれたからなのだと思う。来て良かった、と心から思うことができた。

小豆島を離れる時、旅が終わる時に感じる独特の寂しさは不思議となかった。何か特別なものを見たわけでもなく、特別なことをしたわけでもないが、自分が求めていた、自然の中で過ごすゆっくりにした時間を心ゆくまで味わえたからなのだと思う。日々の喧騒から離れ、自然と共にゆっくりに流れる時間を愉しむことの大切さを再度実感させられた瞬間でもあった。



あたたかい夢を胸にがんばる人たちは、みんなどこかでつながっている。そんなゆるやかでシアワセな“志縁”をご紹介します。

文/大橋弘宜

NODE代表 河村 陽介さん

名古屋市中区錦2丁目11番13号
トランジットビル4F
<http://www.node-lab.org>



名古屋市伏見にある長者町商店街の一角にあるビルにNODE（ノード）のラボが先月5月に完成した。NODE拠点でもあるトランジットビルの4階でNODE代表の河村さんから話を伺った。NODEは「東海中部地域にメディアアートのコミュニティを作ることを目的として、2011年の11月のワークショップを皮切りに活動を始めた。若い人や学生をはじめとする中部地域のクリエイターが集い、勉強会や



メディアアートなどの情報交換などを中心に行っている。ラボと称するワークスペースでは、NODEの制作環境の場として、またNODEメンバー（現在5名）の誰かが常駐しており、ふらっと遊びに来てもいい場所となっている。名古屋など中部圏ではなかなかメディア系のクリエイターが活躍する場や発表する場が少ないということも、少しでもクリエイター達が集まり情報交換の場や作品作りの環境を整えていく狙いだ。河村さんの活動としては、2005年からMOBILUM (mobile-museum でモビウム) と名付けた大型バスで全国を移動して、バスの中でアート作品やワークショップを表現したり、各地でのアートシーンをつなげていくという試みをしてきた（現在は再生準備中）。「まちの環境として、メディアアートの環境を増やしていきたい」と話す河村さん。メディアアートの何ですかという筆者の問いに河村さんは「テクノロジーを使った表現」で、「Phone（アイフォーン）などのスマートフォンで使えるアプリなどもその1例」という。一般の方向けには、NODEでは、今年7月に子供向け電子工作ワークショップや9月には汗かくメディア展示などで活動予定があるので、お近くの方はぜひちょっとデジタルな、アートの世界に遊びにいらしてみたいかがでしょうか。最新の情報はウェブサイトで確認できます。

コメント: 企画法人スズハシ 大橋 弘宜さん

N-mark 武藤 勇さん
名古屋市中区錦2丁目11番13号
トランジットビル2F
<http://www.n-mark.com/>



オープン前のトランジットビル

トランジットビル2FにN-markの事務所がある。N-markは1998年から地域のアート活動を盛り上げていく活動で動いているユニット。面白い人達が集まり、それらの活動をサポートしていくのが狙いと話す武藤さん。武藤さんはトランジットビルの企画運営に関わっており、ビル自体が自立するというコンセプトで、オフィス、アトリウム、ギャラリーなどの空間と場所があり、アーティストやクリエイターなど世界に発信したい人が集まる。

既存にあるビルの新しい使い方として、運営も企画も一体化していく。例えば、階段に作品を飾るなども可能。カメラマン、建築家などの専門家もいるので、意見やアドバイスを聞ける。このビルにあれば何でも出来るということを目指す。一般向けには、定期的に展示会やワークショップなどをしていく予定で、一階にはカフェや古書店が入り、新スポットになるかも。ぜひチェックしてみてください。



古書店の五つ葉文庫さん、2500冊もの古書が並びました。

新和祭りを開催しました

文／伊東かおり 写真／梶野碧・伊東かおり

おなかを満たす屋台コーナーなどが軒を連ねます。どちらの日も、たくさんのホームオーナー様にお越しいただき、大盛況となりました。

春の嵐が吹き荒れた4月22日と、初夏の日差しがまぶしい5月26日に、2年ぶりの新和祭りが開催されました。4月はLife住宅館及び西春工場にて、5月は美濃加茂支店にてそれぞれ開催しました。

本店では、バイオリンとピアノの演奏会も開催され、モーツァルトやヴィヴァルディなど春らしいさわやかなクラシック音楽から、崖の上のポニョや映画音楽まで、誰もが楽しめる演奏をゆつくり味わうことができました。

また、和室に設けられたお抹茶コーナーでは、温かいお抹茶とお菓子を楽しむ空間が演出され、大人気の様子でした。

サブ会場の西春工場は普段、木

工加工をしたり大工道具を置くなど大工さんの基地として活用されている場所です。その基地の中で大工さんから直接手ほどきを受けて木工体験ができるということ

で、120組のご家族やご夫婦が椅子作りに挑戦しました。椅子づくりはあらかじめ大工さんがこの日のために準備をしておいた材料を使い、一組に一人の大工さんが付き添って組み上げと仕上げを行います。30分という時間の中で、どのテーブルも立派な木の椅子を作り上げていました。

支店の名物コーナーは、豚の丸焼きコーナーと、建前をその場で作って行う餅投げです。豚の丸焼

きは、1日で一頭を丸々その場で焼くということで、迫力も満点でした。この豚さんは、新和建設の故郷、岐阜県白川町黒川産の「安心豚」を使用しているとのこと。炭火で2時間かけてじっくり焼くため、ジューシーでおいしく仕上がるのだそうです。

建前は、それまで横たわっていた柱を大工さんたちがあつという間に建てていきます。新和建設の技を目の当たりにする瞬間でもあります。おまけに、そこから投げられる餅の中には、景品の当たりくじも入っていることから、この日一番のにぎわいとなりました。

どちらも祭りも、新和建設らしさを十分に楽しめ、また来年も楽しみにするような新和祭りでした。



神宮東展示場リニューアルオープン!

文／梶野 碧 写真／木村善則

熱田神宮に程近い神宮東展示場は、これまでの展示場のイメージを覆す、画期的リフォームを終え3月31日にリニューアルオープンいたしました。

例年より寒い春の訪れとなりましたが、うすピンクの桜も満開に向かってまっしぐらだったこの時期。新しくスタートするには春が一番ということ、さっそくお話を伺ってきました。

外観は以前と変わりありませんが、展示場内の2階部分を一新し、1階はサンルームを少しイメージチェンジしています。

今回のリフォームのテーマは「プロカントのある暮らし」。「プロカント」とは、フランス語で古道具、ガラクタ、職人の手内職という意味を持ちます。

2階はもともとあった部屋の壁を大胆に取り外し、ワンフロアに。壁も柱も白く統一され、家というより上品なお店のような雰囲気です。置かれたプロカ

ントの家具や照明たちは、インテリアというより作品といった方がふさわしく、ガラス瓶一つとっても、細かく計算されてそこにあるのが伝わってきます。1階のサンルームも、緑や小物が絶妙に配置され、女性がわくわくしそうな空間です。

も、愛着をもって長く使い続けたいものかを言います。新和建設で家を建てるお客様には、家を大切に長く住んで欲しい。そのために家づくりには、子供からおじいちゃんおばあちゃんまで家族全員で参加してもらおう。それは、家に愛着をもってもらうためでもあるのです。愛着が物を大切に長く使うコツであり、新和建設の家も、世代を超えて愛される家になって欲しい。そんな願いが込められているのか。とても、深いです。

初夏を彩るあじさいの花はよく見ると小さな花たちが寄り添いあつていて、雨に濡れると一段と美しさを増します。見ているだけでだんだんと心身の疲れを癒し、新たな活力を呼び起こしてくれます。

ラックス効果があります。今年はいんぷーツも流るみたいですね。雨の日は少しおしゃべりをして、外に出かけてみましょうか。



四季折々、私たちの日々を彩り、楽しませてくれる植物について、ちょっといい話、役立つ知識を紹介いたします。

文・写真／山崎智子

心の風景



特に白い花は呼吸器系を活性化する働きにすぐれていて、血圧が安定し、神経の緊張をときほぐしてくれます。はじめとした梅雨が過ぎ、蒸し暑い夏がやってくると、それだけでもストレスになってしまいますね。そんな時は白い花と黄緑色の葉をもつあじさいがお勧めです。この色合は「安らぎ」を感じる組合せですので、気持ちを穏やかにし、リ



おおどえこどえだより

毎回楽しく拝見しています。家の手入れの仕方、どこをどのように手入れすると長持ちするのかを特集してほしいです。(名古屋市/J様)

お葉書ありがとうございます。お手入れ方法についてのご要望は、以前から多数いただいております。また折を見て特集をさせていただきたいと思いますので、お楽しみにお待ちください。

編集部から読者のみなさまへ

本コーナーでは、同封のアンケートにてみなさまから寄せていただいたコメントを掲載しております。ぜひ、空間上手へのご感想やご希望、ご質問等を記入の上、アンケートを返信ください。掲載させていただいた方には図書カードをお送りさせていただきます。みなさまからの返信、心からお待ちしております。

編集後記

■本誌59号でも特集した、空間上手初代編集長の小林麻里さんが本を上梓されました。「福島、飯館 それでも世界は美しい」原発避難の悲しみを生きて〜(明石出版)。4年前に夫を亡くし傷心の日々を友に支えられ飯館村で暮らしていた小林さんは、立ち直りかけたとき原発事故に遭遇しました。夫の魂が宿る村から離れがたく、福島県内に避難しながら月に数度村に通う日々。この苦しみをどう乗り越え、生き延びていくか。震災から1年の魂の記録となっています。アマゾンからも購入できます。(伊東かおり)

発行・新和建設
発行人・吉村良三
編集人・伊東かおり
書・湯浅千久
Thanks・梶野 碧 山崎智子 有田幸司 大橋弘宜
加藤光博 木村善則 村田元夫 中村和子
戸上昭司
取材協力・種村敦夫さん、美智子さん
NODE N-mark
Printing・プラザー印刷株式会社



本社・本店Life住宅館

愛知県北名古屋市野崎山神15番地
TEL 0568-23-0536 FAX 0568-22-3012



美濃加茂支店・夢の住宅館LEGEND

岐阜県美濃加茂市本郷町9-15-60
TEL 0574-25-6631 FAX 0574-25-6608



高山支店・LIVEすまいる館

岐阜県高山市松本町34-1
TEL 0577-32-8782 FAX 0577-32-8783



岐阜黒川支店

岐阜県加茂郡白川町黒川1646
TEL 0574-77-1314 FAX 0574-77-1314



一宮展示場

愛知県一宮市丹陽町五日市場字本地38番地
TEL 0586-81-3375 FAX 0586-81-3376



神宮東展示場

神宮東中日ハウジングセンター内
愛知県名古屋市熱田区三本松町25-1
TEL 052-883-5305 FAX 052-882-3581



黒川東展示場

黒川東中日ハウジングセンター内
愛知県名古屋市北区猿投町2
TEL 052-914-5730 FAX 052-914-5731



蟹江展示場

CBCハウジング蟹江インター住まいの公園内
愛知県海部郡蟹江町北新田1-60
TEL 0567-94-1555 FAX 0567-94-1556



可児展示場

可児ハウジングセンター内
岐阜県可児市下恵土字針田4100
TEL 0574-61-1638 FAX 0574-61-0721



多治見展示場

多治見ハウジングセンター内
岐阜県多治見市上山町1-4
TEL 0572-25-6777 FAX 0572-25-6858



春日井展示場

愛知県春日井市西山町2丁目6番9
TEL 0568-86-8878 FAX 0568-86-8868



各務原展示場

岐阜ハウジングギャラリー各務原内
愛知県各務原市蘇原青雲町3丁目41の1
TEL 058-371-7013 FAX 058-371-7014



木香の森 鹿田総合住宅展示場

北名古屋市鹿田合田240番
TEL 0568-68-6015 FAX 0568-25-0980



恵木の杜 可児総合住宅展示場

岐阜県可児市下恵土2993-1
TEL 0574-63-0715 FAX 0574-63-7016



四季彩の杜 木楽暮展示場

岐阜県可児市下恵土宇野区路880
TEL 0574-25-6631



高山展示場

岐阜県高山市松之木町308
TEL 0577-32-8782 FAX 0577-32-8783



株式会社新和建設